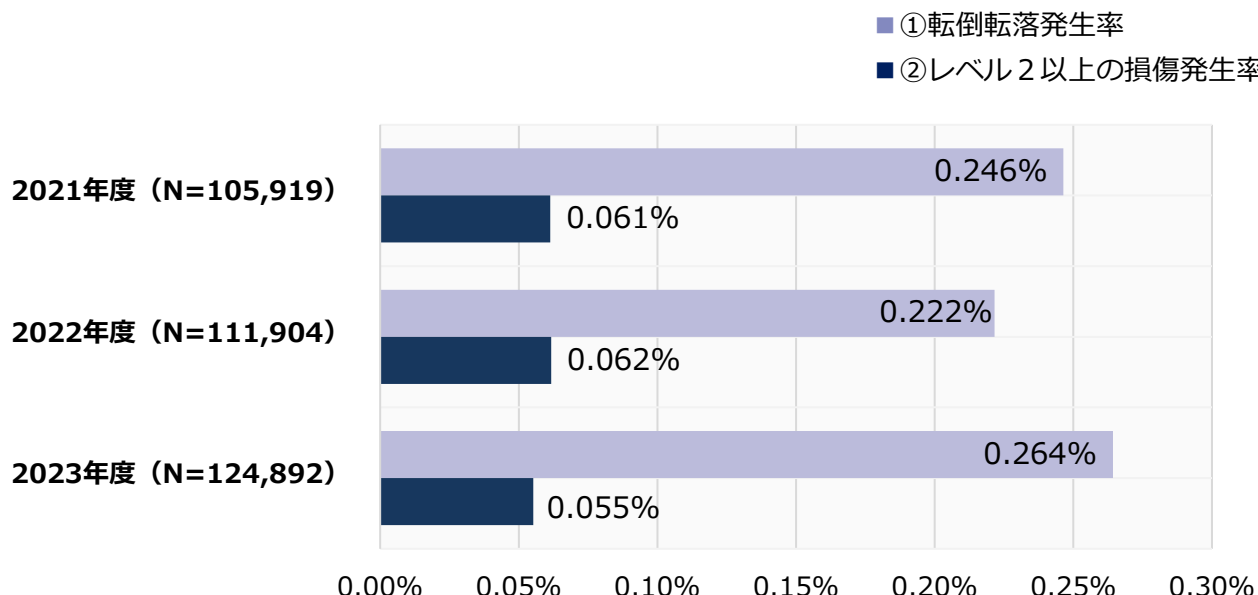


転倒転落による損傷発生率

転倒・転落予防の取り組みが効果的に行えているか評価する指標です。

入院中の転倒転落は慣れた住居と違う環境や、病気そのもの、治療や検査が身体に影響を及ぼすなど様々です。発生した事例の追跡や発生原因の分析から必要な予防策・改善策を導き出すことができ、実践していくことで発生防止につながります。より低い値であることが望ましいとされています。



当院値の定義・算出方法

分子： ①インシデントレポートの転倒転落件数

②インシデントレポートの転倒転落件数のうち損傷レベル2以上の転倒・転落件数
(レベルは日本病院会の定義使用)

×100 (%)

分母： 入院のべ患者数 (患者100人あたりの割合)

※グラフ中のN数は分母の値を示しています。

結果の考察と今後の取り組み

- ・入院時全患者に転倒・転落アセスメントを実施し、問題点を抽出し状態に応じた予防策の実施。
- ・転倒転落アセスメントスコアⅡ以上は看護計画を立案し介入を行う。
- ・入院時患者家族に「転倒転落防止ビデオ」を視聴もらい転倒転落防止対策に協力していただく。
- ・転倒による骨折が13件であった。
- ・アセスメントスコアと評価が確実に実施できるよう指導を行い、転倒・転落カンファレンスの実施と部署にて評価シートに記入する仕組みを作った。
- ・衝撃吸収マットを各部署1枚ずつ導入した。
- ・スリッパ使用患者や体に合っていない病衣着用が目立ち指導を行なった。スリッパはCSセットより外してもらった。
- ・他職種との連携。

文責：セーフティマネージャー

高松 麻由美